

'04 広島県立大学

解説

- (1) $\triangle ABC$ は $AB=AC$ の二等辺三角形であるから、
BC の中点を M とおくと

$$AM \perp BC, \quad BM = \frac{1}{2}BC = \frac{3}{2}$$

$$\text{よって } \cos B = \frac{BM}{AB} = \frac{\frac{3}{2}}{4} = \frac{3}{8}$$

- (2) $\sin B > 0$ であるから

$$\sin B = \sqrt{1 - \cos^2 B} = \sqrt{1 - \frac{9}{64}} = \frac{\sqrt{55}}{8}$$

$$\text{正弦定理により } \frac{AC}{\sin B} = 2R$$

$$\text{よって } R = \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot \frac{8}{\sqrt{55}} = \frac{16\sqrt{55}}{55}$$

- (3) $\angle BPA = \angle ACB = \angle ABC = \angle APC$

$\triangle ABP$ において、余弦定理により

$$4^2 = AP^2 + BP^2 - 2AP \cdot BP \cos \angle APB$$

$$\text{すなわち } 16 = AP^2 + BP^2 - 2AP \cdot BP \cos B \quad \dots\dots ①$$

同様に $\triangle APC$ において、余弦定理により

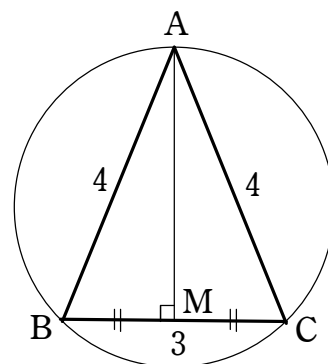
$$16 = AP^2 + CP^2 - 2AP \cdot CP \cos B \quad \dots\dots ②$$

①, ② から、BP, CP は $x^2 - 2xAP \cos B + AP^2 - 16 = 0$
の解である。

- (4) (3) の 2 次方程式において、解と係数の関係により $BP + CP = 2AP \cos B = \frac{3}{4}AP$

AP が最大となるのは、AP が円 O の直径になるときである。

$$\text{よって、BP + CP の最大値は } \frac{3}{4} \cdot 2R = \frac{3}{2}R = \frac{3}{2} \cdot \frac{16\sqrt{55}}{55} = \frac{24\sqrt{55}}{55}$$



講評

三角比の問題。典型的な問題なので、解きにくい部分は無いと思われる。特に最後の最大値の問題は置き換えをするのが定石。分からなかったらきちんと出来るようにしておきたい問題。